

「地域学校協働活動推進のための研修」

令和4年6月2日(木) 青森県総合社会教育センター第1研修室 受講者数46人(オンライン含む)

1 趣旨

地域学校協働活動の推進に向けて、地域と学校が協働する仕組みづくりに関わる市町村教育委員会担当者や地域学校協働活動推進員等の資質向上を図る。

2 内容

【講義】「教員だけでは成し遂げることができなかった『奇跡の学校』の姿とは
～コミュニティ・スクールの可能性～」

講師 文部科学省総合教育政策局CSマイスター 小西 哲也 氏

【事例報告】「青森県内各地区の取り組み報告（青森市・八戸市・鶴田町）」

事例報告者 市町村教育委員会担当職員、市町村地域学校協働活動推進員



3 講義要旨

○日本の学校がコミュニティ・スクール化を目指す背景

日本の子供たちは海外と比べて、自己肯定感、幸福度、自尊心を持っている割合が低い。学校の悩みを地域と一緒に考え必要な支援をする、地域と共にある学校が必要である。

○なぜコミュニティ・スクールが必要なのか

(1) 子供の現状 (2) 社会の変化 (3) 学校に求められるもの (4) 子供に求められる力
未来を生きる子供たちに、生きる力をつけさせないといけない。人は人を浴びて人になる。

○これからの時代の学校

- ・地域：学校の関係を、50：50のWIN WINの関係に！
- ・地域連携の充実、成長のためには、「熟議」「協働」「マネジメント」を本気でやっていく。

地域の方々との関わりは子供の成長や意識の変化を促す。学校運営協議会を設置した学校では、地域住民の意識が変わる。

4 アンケート結果から

受講結果に満足	35人(94.6%)	どちらかと言えば満足	2人(5.4%)
どちらかと言えば不満	0人(0%)	不満	0人(0%)

- ・コミュニティ・スクールは、その土地の未来を背負う人材づくりにつながるということが理解できました。導入事例から制度浸透などを見据え10年計画で取り組むなどの息の長い姿勢で携わっていく覚悟も必要であると感じました。
- ・何事も前向きにビジョンを共有して、地域と学校をつなぎ、お互いに協力していけると思いました。協力して頂ける方の育成にも関心がわきました。
- ・三市町村の事例報告は、具体的で分かりやすく、とても参考・勉強になりました。県内でもこれほどの活動が行われていることを知らなかったのが驚きました。どの市町村でも地域学校協働活動本部の立ち上げにはいろいろなことがあることが分かって、勇気をもらいました。

「社会に開かれた教育課程とは、地域の大人を知り、地域を自分事として考えることである。もっともっと地域を巻き込み、大人は学び続けなければならない。」と小西先生はおっしゃっていました。市町村教育委員会担当者や地域学校協働活動推進員が、地域学校協働活動の推進やコミュニティ・スクール設置の意義を改めて学ぶよい機会となりました。